

1. 5 サルの行動観察体験（生物分野）

(1) 研究開発の概要

生物の学習で重要なのは本物を見るということである。生物Ⅰには「動物の行動」という単元があり、理系生物選択者は2年次に、文系生徒は3年次最初にこの部分を学習する。今年度も引き続き、京都大学霊長類研究所の古市先生のご協力を得て、ニホンザルの行動観察実習を実現することができた。

(2) 仮説（ねらい、目標）

- ア ニホンザルなどの行動観察を行い、それを記録・考察することで、研究の方法を学ぶ。
- イ 講義から、現在の霊長類研究の最新の知見を得る。
- ウ 実習や講師の先生との対話を通して、研究に対する姿勢や情熱を学ぶ。また真理の追究に向け主体的に探究する態度を身につける。

(3) 研究の方法および内容

- ア 対象生徒 2・3年理系生物選択者、生物部の希望者17名（男子4名・女子13名）
- イ 実施日程 6月16日（日）
- ウ 実施場所 京都大学霊長類研究所
- エ 講師 京都大学霊長類研究所 教授
古市 剛史 先生



ニホンザルを観察する生徒たち

オ 実施内容

- (ア) 講義Ⅰ 霊長類の進化、ニホンザルについて
- (イ) ビデオ『ニホンザルの四季』の視聴
- (ウ) 講義Ⅱ ニホンザルの社会構造と性について
- (エ) ニホンザルの観察
- (オ) 博物館見学
- (カ) チンパンジーの見学
- (キ) 発表と討論とまとめ
- (ク) 講義Ⅲ アフリカでのボノボ研究について

(4) 検証（成果と反省）

ア 事後アンケートの結果から

参加した生徒は全員内容に興味・関心を持ち、理解し、観察への興味が高まり、霊長類研究への理解が増したと答えている。

イ 生徒の感想から

知識を原理や仮説として教えてくれるのではなく、具体例や先生自身の実体験、それにまつわる知識まで教えてくださったので、いろんな方面からサルの行動の進化を知り、考えることができたのでよかった。また、チンパンジーをすごく近くで見ることができてとても貴重な体験だった。彼らはとても大きく、知性的で、人間に近い存在であるのだということを感じた。

ウ 事業内容全体の評価

生徒のアンケート、感想からも本物のニホンザルやチンパンジーを見る、彼らをしばらく観察するという事は、授業ではできない貴重な体験で、当初の目的は果たされたといえる。

